

## 人口減少時代の

### 商店経営を学ぶ

#### 群馬県商店街(振)連合会

群馬県商店街振興組合連合会(今川守会長、15会員)では、2月21日、沼田地区の若手商業者を対象に「人口減少時代を生き抜く商いの秘訣」をテーマに講習会を開催した。講師は、株式会社神田経営研究所神田邦夫所長。

神田氏は、地方の商店街にとつ



神田邦夫氏

て人口減少が深刻な問題となっていると指摘。また、年齢構成をみると、45〜64歳のシニア層と65歳以上のシルバー層の割合が高いという特徴があると説明した。沼田市においては、約5万人の人口の内、5割以上をシニア・シルバー層が占めていると説明し、これらの層をターゲットにする戦略の重要性を強調した。

神田氏は「シニア・シルバー層に対する戦略は『本物』がキーワードとなり、食材であれば、無添加・天然物、衣類なら天然繊維」と具体的なニーズを紹介しながら、これからの商店経営について語った。また、「孫には財布の紐が緩む傾向が強いので、小学生向けの商品の取り扱いも効果的である」と持論を展開した。

### 商店街活性化の方策を探る

#### 太田市本町商店街(振)

太田市本町商店街振興組合(中村光雄理事長、組合員30人)では、2月25日、有限会社風間総合サービス風間教司社長を講師に招き、「店づくりが街を変える」をテー

マに講演会を開催した。



風間教司氏

風間氏は、栃木県鹿沼市でカフェを経営。衰退する市街地を楽しい街に変えることを決意し、「ネコヤド大市」という、出店希望者に出店体験をしてみようイベントを企画。この企画から5年間に15店舗が開業を果たしたと語った。「ネコヤド大市」は、その後「ネコヤド商店会」に姿を変え、さらに、商店街の後継者を加えた「ダンナビジョン」という組織に発展し、地域活性化に関心のある人同士のコミュニケーションの場となっていると述べた。また、今後は、屋台村の設置やまちづくり会社設立を考えていると夢を語った。

### 商店経営に求められる

#### 数学リテラシーを学ぶ

#### 桐生中央商店街(振)

桐生中央商店街振興組合(茂木

理亨理事長、組合員29人)では、3月13日、BMコンサルティング深沢真太郎代表を講師に講演会を開催した。

深沢氏は、ビジネススマン向けの数的思考の指導で大変好評を得ており、今回の講演テーマは「優れた経営者や商人に共通する数学リテラシー」。深沢氏は、「戦略を立てるために欲しい数字は、調べてもなかなか見つからない。そこで、分かっている数字からざっくりと欲しい数字を捉えることが大切」と述べ、そのテクニックを解説し、「数字で考えることは、商店経営上、非常に強い武器となる。ぜひ、経営に役立てて頂きたい」と呼びかけた。



深沢真太郎氏